

【速報】徳富南湿原(仮称)の発見と概要について

On Discovery and Outline of Toppu Minami Mire (temporary name)

○齋藤 央・行方 和之 (石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク)

○Kei Saito and Kazuyuki Namekata (Ishikari Basin Wetland Network)

ezg01473@nifty.com

石狩川流域の湿地保全関連団体の連絡組織である石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワークでは、2017 年の発足以来、正会員団体の活動対象から外れている湿地の実態を明らかにする合同探索会を開催し、数多の知見を得てきた。その反面、合同探索会の対象地は石狩大湿原由来の残存湿地が殆どであり、増毛山地の多雪山地湿原については着手されてこなかった。この空白を埋めるべく、増毛山地の空中写真から湿原の疑いがある草原様地形を判読し、接近踏査が容易な地点を対象とした探索を行うこととした。

空中写真判読の結果、新十津川町南西部の徳富地区の標高 540~650m の山間部に、雨竜沼湿原と酷似したテクスチュアの草原が点在していることが判明した。比較的大きな面積の草原が 3ヶ所に集中しており、それぞれ α 群・ β 群・ γ 群と命名した。このうち、2015 年度の植林事業で周囲の攪乱が著しく、林道に隣接しており到達が容易な γ -3(約 2ha)を合同探索会の対象とし、6月 23日に踏査した。また、追加調査として γ -1・ γ -3の踏査や β -3の植生調査を行った。

踏査・調査の対象となった湿原様草原においてはヌマガヤ、ホロムイヌゲ、モウセンゴケ、ワタスゲ、ツルコケモモ、ミズゴケ属が卓越しており、いずれも湿原であることが確認できた。石狩大湿原起源のボッグ(美唄湿原など)で顕著なヤチヤナギ、ホロムイツツジ、ノハナショウブを欠いており、増毛山地における既知の多雪山地湿原と類似した植物相を有することが示唆された。既知の湿原である徳富湿原の南方にあることから、これらの湿原様草原群を徳富南湿原(仮称)と命名した。

キーワード：湿原、新十津川、ボッグ、発見、北海道